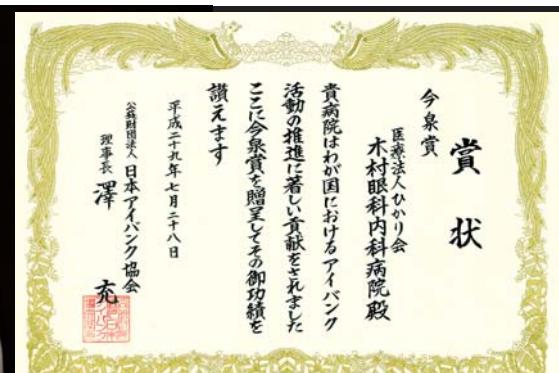




ひかりいっぱい新聞

日本アイバンク協会 第9回今泉賞受賞 院長 木村 亘
 目が不自由でもできる化粧法「ブラインドメイク」でフルメイク
 12歳の少年に蘇った視力 ~タンザニア眼科医療支援活動2017~ 医長 横山 光伸
 駅やバス停の時刻表、新聞などが読め、色まで判る！タブレットを用いて低視力での生活を便利に

日本アイバンク協会 澤 充 理事長より表彰状を授与されました



謝辞を述べる院長

日本アイバンク協会

第9回 今泉賞受賞

院長
木村 亘

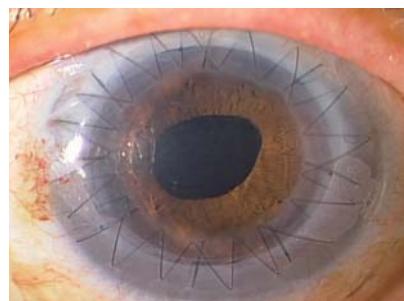
平成29年7月28日(金)、東京国際フォーラムで第9回今泉賞授賞式が行われ、木村眼科内科病院が受賞致しました。

今泉賞とは、日本で献眼による最初の角膜移植手術を行った岩手医科大学教授 故 今泉亀撤(いまいづみきてつ)先生の多年に渡る角膜移植医療及びアイバンク活動への貢献を記念し、その熱意を継承し発展させるため、日本アイバンク協会が平成20年に創設しました。角膜移植医療及びアイバンク活動に貢献した個人や団体を顕彰します。

当院で最初の角膜移植手術を行ったのは昭和59年です。両眼の角膜変性症のため進学も就職も断念せざるを得ない若い方を手術させていただきました。当時は広島地区に角膜移植の専門医が少なく、それなら自分達で決心し角膜移植手術に取り組むきっかけになりました。広島県にはアイバンクが無かった為、角膜は阪大アイバンクから提供していただきました。その後も、読売光と愛の事業団、他県のアイバンクの



角膜移植手術前



角膜移植手術後

ご協力を仰ぎ、少数例ではありましたが角膜移植を継続して実施して参りました。

平成2年、全国で45番目のアイバンクとして「広島県アイバンク協会(現 ひろしまドナーバンク)」が設立され、以後 ひろしまドナーバンクのご協力のもと、角膜移植手術を行っております。

当院で角膜移植手術を開始してから33年。通算で794眼の角膜移植手術(平成29年7月末現在)を行いました。これも角膜を提供して頂いた方々、日本アイバンク協会、ひろしまドナーバンク、献眼運動を強力に支援して下さっているライオンズクラブの方々達のご協力があってのことだと思います。角膜の障害でご苦労されている方々に、光を与えられる治療に関わる事ができる喜びとアイバンク活動に使命感を強く感じ、今後も精進して参ります。



今泉 龜撤 教授

今泉亀撤(いまいづみきてつ)氏は、眼科医、医学博士、岩手医科大学名誉教授。昭和24年、日本で最初の角膜移植手術を行い、その後、昭和31年、日本最初のアイバンクとなる『目の銀行』を岩手医科大学内に設立しました。平成19年度 保健文化賞を今泉氏が受賞し、賞金を日本アイバンク協会に寄付されました。協会では今泉氏の多年に渡る角膜移植医療及びアイバンク活動の貢献を記念し、今泉賞を設定しました。

目が不自由でもできる化粧法 「ブラインドメイク」でフルメイク

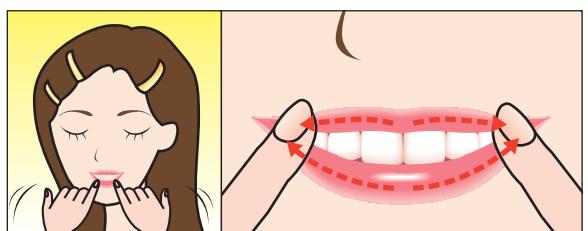


目が不自由だから化粧はできないと諦めている方も多いと思います。「ブラインドメイク」は、その名称のとおり目が不自由でも一人でフルメイクができる化粧法です。

2008年、大石華法(かほう)さんは、多くの視覚障害者が化粧を諦めていると知り、手指で化粧するブラインドメイクを考案しました。その後、大石さんは視覚障害者の女性達と日本ケアメイク協会を立ち上げ、視覚障害のある女性を中心に、高齢や認知症、精神障害などハンディを持つ人々のQOL(生活の質)を向上させる「ケアメイク」の活動に取り組んでいます。

ブラインドメイクは筆やチップの代わりに、手指を使います。両手の指にファンデーションやアイシャドー、チークや口紅をつけ、指をこすり合わせてなじませ、左右の手をワイパーのように同じ強さ、同じスピードで動かします。

こうすることで左右バランスよく、ムラなく、はみ出さずにお塗ることができます。ブラインドメイクの講習を受けるとマスカラの塗り方なども習得でき、目の不自由な方も20分ほどでフルメイクができるようになるそうです。



目の不自由な方の中には化粧ができない、外出をためらう方も少なくありません。化粧が綺麗にできるようになった方からは「自信をもって外出し、人や社会に交わることに対して前向きになった」「自己肯定感、満足感、幸福感を得ることができた」と高い評価を得ています。

現在、ブラインドメイクを受講された障害者の方は200人以上。日本ケアメイク協会では各地から問い合わせがあるので、協会公認の化粧訓練士の養成にも力を入れているそうです。



12歳の少年に蘇った視力

～タンザニア眼科医療支援活動 2017～ 医長 横山 光伸

今年も6月11日(日)～19日(月)の期間で、タンザニア眼科医療支援活動に参加してまいりました。初日はムヒンビリ大学病院で講演をしました。講演の前に寄贈する滅菌機の贈呈式があり、現地の新聞・TVメディア4社が取材に来られていて翌日の新聞に掲載されました。

今年は私1人で初日に白内障手術14例(眼内レンズ強膜内固定2例を含む)、2日目が13例、過去最高の合計27例を行いました。



今年の初めての試みは市議会議員から依頼された眼科検診です。検診はムヒンビリ大学病院から車で約1時間のKinyerezi(キネレジ)村の診療所で行いました。初の検診でどのように行うかが問題でしたが、市内の各地域で数人ずつ希望者を募り、視力、血圧、血糖、体重測定と問診を行い、これらをもとに山崎医師と私が二手に分かれて45名の検診をしました。

アフリカといえば視力がとても良いマサイ族を思い浮かべると思いますが、現在タンザニアでは公共料金がスマートフォンでしか支払えないなどの理由もあり、ほぼ全員がスマホを持ち生活必須機器となっています。今回の検診で子供から高齢の方まで幅広い年齢の一般の方を診ると、驚いたことに近視の方が増えています。文明が入ってきたとたん環境が変わり、住民も変わってしまったのです。収入が少なく眼鏡は高級品で、なおかつ眼鏡店が町の中心にしかないこの国

で近視化する住民はこれからどのように対応、変化していくのでしょうか。眼鏡のボランティアも必要になるかもしれません。

タンザニアでの医療支援も日本での診療も全ては病気を持つ患者様の為と思い日々頑張っております。自分の持っている力を存分に發揮し、少しでも多くの患者様の満足が得られるよう心掛けていきたいと思っております。

今回、特に印象的だったのは角膜穿孔外傷で無水晶体眼となっている12歳の少年の手術でした。少年はかなり緊張していて麻酔時には号泣しましたがスタッフの慰めで20分間の眼内レンズ強膜内固定手術に耐えてくれました。術前は無水晶体眼で見えない方の眼が若干の外斜視となっており術後が気になりましたが、翌日の診察時には裸眼で0.7の視力が出ており斜視も治っていました。母親が飛び上がるほど喜び、少年も見えることに満面の笑顔を見せてくれ、こちらもガッツポーズで万歳と言いたいほど嬉しかったです。術者冥利に尽くる瞬間でした。

トラブルは今年もありました。昨年寄贈した高速滅菌機のタンクに精製水ではなく、水道水から作った水(?)を入れたため、水が腐敗しタンクが汚れて壊れていきました。修理は諦めて時間は掛かりましたが旧式の滅菌機で滅菌しながら無事手術を終えました。



検診を行ったキネレジ村の診療所



通訳をして貰いながらの検診

と思いますが、現在タンザニアでは公共料金がスマートフォンでしか支払えないなどの理由もあり、ほぼ全員がスマホを持ち生活必須機器となっています。今回の検診で子供から高齢の方まで幅広い年齢の一般の方を診ると、驚いたことに近視の方が増えています。文明が入ってきたとたん環境が変わり、住民も変わってしまったのです。収入が少なく眼鏡は高級品で、なおかつ眼鏡店が町の中心にしかないこの国

で近視化する住民はこれからどのように対応、変化していくのでしょうか。眼鏡のボランティアも必要になるかもしれません。



タンザニアの新聞

駅やバス停の時刻表、新聞などが読め、色まで判る!

タブレットを用いて低視力での生活を便利に

当院では低視力で「見えにくい」「まぶしい」など見え方の事でお困りの方のための「ロービジョン外来」を開設しております。さらに歩行訓練やタブレット講習会なども定期的に開催し

ています。

先日7月15日には広島大学大学院教育学研究科准教授の氏間和仁先生によるタブレット講習会が行われました。患者様には1人90分かけて、その方へお勧めの様々な機能やアプリが紹介されました。



氏間先生によるタブレット講習

タブレットやスマートフォンは誰もが普通に使用しているものが、ロービジョンの方にも大変役に立つすぐれものです。例えばカメラ機能と拡大機能は、大きくて場所をとる高額な拡大読書器と同様の働きがあり、駅のホームなど屋外で掲示板の文字や時刻表、あるいは新聞や単行本、教科書を「写真に撮り」「拡大して」読むことができます。

お子さんにはゲーム感覚で遊びながら文字が覚えられる知育アプリ、音声ソフトでは文字を打たなくてもメールや電話をかけることができ、ネット検索やカレンダー、メモをとることも容易にできます。

さらにリマインダーアプリでは、「〇日の〇時に〇〇する」など、必要な内容を通知して思い出させてくれたり、服や周りの物の色がわかりにくい方には写した物の色を判別してくれるアプリや、紙幣の判別が難しい方にはお札をカメラにかざすとお札を識別して「1,000円です」と音声で教えてくれるアプリなどもあります。

ご自身のしたいこと、必要とされる情報に大変有用なタブレット講習会は3か月に1回程度定期的に開催しています。ご興味のある患者様は医師にご相談ください。

ロービジョン外来で 行っていること

- ・拡大鏡や拡大読書器、遮光眼鏡や弱視鏡など補助具の処方
- ・スマホ、タブレットの利用法、便利グッズの紹介
- ・身体障害者手帳、補装具、特定疾患、日常生活用具などの福祉相談
- ・偏心視(視野の中心が見えない場合、視線をずらして見る)の訓練
- ・患者友の会の紹介 など



個々にあった機能やアプリを紹介

医療法人社団ひかり会

木村眼科内科病院

〒737-0029 広島県呉市宝町3-15

TEL : 0823-22-5544 [代表]

0823-21-1000 [病棟専用・夜間・休日]

FAX : 0823-25-9010

医療法人社団ひかり会

焼山木村眼科

〒737-0935 広島県呉市焼山中央1丁目10-9

TEL : 0823-33-8259

FAX : 0823-33-8279